

～RIZAP ENGLISH山崎様インタビュー～

- ・ゲスト様属性: 国際税理士/理事長/男性
- ・英語学習経験: 他社英会話教室・ネイティブの個別指導・留学経験有
- ・入会目的: 経営者として実践的に英語を使えるスキルを身に付けたい
- ・英語教室比較軸: ①時間対効果が高い②英語が身につく“学習法”③日本人講師
- ・入会の決め手: 比較軸にマッチ、メソッドへの納得感、知人が通われていた

Q英語力を強化したいと思ったきっかけはなんですか。

仕事柄、国際税務会計業務に従事しております。

自社でも、外国ルーツ社員も在籍しております、バイリンガル、トリリンガルな環境下、業務をさらに円滑にするためにも、英語はもとより外国語コミュニケーション能力向上の必要性を感じておりました。

また地政学的にみても、日本は「米国」と「中国」という超大国の中間に位置しています。言語的には「英語圏」と「中国圏」という、まさにビジネス・政治・外交的にも、宿命的な位置関係に挟まれています。

日本にとっても欠かせない、米中両国の言語を学び、日本人として生の情報を正確に把握し、実践的に使えるようになることが、経営者・ビジネスパーソン・日本人として、大事だという認識がありました。

そのような環境下で、まずは経営者である自分自身が、コミュニケーション・ツールとしての英語力を、率先して身につける姿勢が大切という認識も強くありました。その姿勢を通じて、次世代の社員や子供たちにも、英語の必要性や、グローバルなコミュニケーション能力向上にチャレンジすることの大切さを、感じ取ってほしいとも考えていました。

また、プライベートな海外旅行でも、共通言語ともいえる英語を、自由自在に使いこなせるようになったら、人生がもっと楽しくなるな～と感じたことも一つの要因です。

Q英会話教室を探すときに見ていた軸はなんですか。

時間(費用)対効果が高い、かつ英語が身につく学習法を教えてください。今までの学習経験(他の英会話教室・個別指導など)では、ネイティブ講師等により、レッスン時には気持ちよく過ごせるような環境で学んでも、成果がでないことを痛感していたからです。

また、講師が日本人であるということも重視しておりました。日本人が躰くポイントを理解し、どうしたら英語が聞こえるようになるか、発音できるようになるか、英語力があがるのかを熟知されているのは、ご自身も英語学習者として勉強された日本人講師だからこその感覚だと思ったからです。

ネイティブだと、日本人がどこで躰くのか、何が聞き取れるのかを分かるのが、感覚的にも難しいのではないかと考えています。

QRIZAPへの入会の決め手は何ですか。

ライザップを選んだ一番の理由は、英語を継続的に身につける学習法・英語脳になるトレーニングの仕方を、時間対効果も含めて理路整然と教えてもらったことです。

“こうすれば時間対効果も含めて、最短ルートで結果が出るんだ！”と、納得・確信できたことが大きかったです。

また、RIZAP本社役員を務める弁護士を通じて、RIZAP ENGLISH取締役を紹介していただき、本社のある北新宿のビル高層階から青空を見上げながら、様々な意見交換したシーンも印象に残っています。

同氏も、RIZAP ENGLISHに通っておられ、忙しい中でもご自身が1日3時間、自ら勉強されると聞き、“本物だ”と感じました。
取締役という超多忙な重責にありながら、継続して勉強ができる環境を作りだしていることに驚きました。

=====
QRIZAP ENGLISHに通ってどのような結果・変化があったのでしょうか。

自身も、国際税理士法人の経営者として、“実践的に英語を使えるスキルを身に着ける“という部分にコミットできたと考えています。まだ学習途中ですが、CNNはじめ海外ニュースを、可能なかぎり、自分の耳で直に聞き取り・理解することができる能力が、とても高まりました。世界にある情報を、自ら理解できる能力が向上したのは、本当に嬉しいです。

英語のモチベーションも、維持できるようになりました。
英語力習得の伴走者として、RIZAP ENGLISHのトレーナーに、いつも一緒に付き添っていただけることは、かけがえのない財産です。RIZAP ENGLISHトレーナーの伴走に沿って走っていれば、学習法としても、時間の使い方としても間違いないという安心感がありました。一番怖いのは、方向感が間違ふことです。時間を、徒に無駄につかってしまうことにもなってしまいます。年齢的にも、経営者としても、あり余る時間があるわけではなく、限られた時間の中で納得感を持って勉強をしたいと考えておりました。

=====
Qトレーナーと走れば結果が出ると、信頼いただいたきっかけは何でしょうか？

セッションの節々で、かなり基礎的なことまで叩き込んでいただいたことが、深い信頼につながりました。

文法・発音記号の繰り返し。発音に至っては、口の開き方、舌の使い方、発音記号の詳細など。何故、今更この歳になって、こんなことをと思ったこともありましたが・・・頭ではわかっている、大事にしてこなかったこと。でも、とても大切なこと。

まさにプロフェッショナルとして、トレーナーが教えてくださいました。
インタビューを受けたからという訳では決してなく・・・RIZAP ENGLISHの英語トレーニングは、日本で一番いいのではないのでしょうか？

日本中の英語レッスン会社を、もちろん全部見たわけではないですが、本当にそう思います。

いわゆる外国人講師にありがちな・・・その場では、オールイングリッシュで、受講生としてはとても気持ちよくなって、受講生を帰らせる、という趣向とは、まったく異なりますね。RIZAP ENGLISHは、「どうしたら成長できるか」を考え、語学力修得のための時間の使い方・学習方法を、きめ細かくご指導いただけるのは大きいです。

英会話教室で、グループディスカッションなどを通じて、良く使うフレーズなどを覚えて、なんとなく上達したような気分になったことは、何度もありますが・・・それは実用的ではないことを、この年齢になって気づきました。

海外留学・駐在してしまえば、1日24時間365日英語に触れられるかもしれませんが、日本にいるとそうはいきません。限られた時間という制約下、「時間の使い方」「走っている方向性」を随時修正してくれたのも、英語学習に打ち込めた要因だと考えています。

=====
Q結果を出すことができた要因は何だと考えますか？

トレーニング方法が正しかったからです。

他社との大きな違いは、外国語を教えるのではなく、「上達するための学習方法」「効率的な学び方」をトレーニングしていただける点です。

世の中の英会話スクールは、文法や単語などの“コンテンツ”を教えるティーチャーですが、RIZAP ENGLISHは英語を上達するための時間の使い方・学習方法などの“メソッド”を教えるコーチであり、伴走者のように感じています。

コンテンツの部分は、今は世の中に広く出ているため、自分で調べれば修得できるようにも思うのです。そのような修得は、RIZAP ENGLISHでいえば、次回までのシュクダイの中で消化すればよ

いのではと感じています。

そうではなくて、間違いなく進んでいける“メソッド”を教えてくださいからこそ、節々で学習のマイルストーンをひき、成果を出すことができるのではないのでしょうか。

幼少期には、脳としての吸収力も柔軟なので、英語の流しっぱなしのような接触機会を多くすることで、語学をマスターすることも可能なのではと思います。

しかしながら、大人になって、脳の発達能力に限界が生じた後には、幼少期のようなやり方は通用しないと感じています。そのため、英語の接触機会を増やすだけでなく、学び方から指導してもらう必要があるのではないのでしょうか。

日本の英語学習特有の悲しいことに・・・中高大と、文法的な英語学習を経験してしまうことで、ある程度の土台があることで、これまでの学習方向を見直し、学び方の土台自体を作り直すという視点に、気がつかない(気がつきたくない)のではないのでしょうか。

=====

Q通っている中で、印象に残っているエピソードはありますか？

かつてトレーナーから、発音記号について、学者かと思うくらい・・・きめ細かく教わったことが、かなり強く印象に残っています。

これまでの英語学習を通じて、そのような視点で指導を受けたことがなかったのも、大きなインパクトでした。正直に申し上げて、セッション当初は、発音記号にそこまでこだわる必要性が理解できませんでした。

しかしながら、今になってみると、口を指二つだけ空けて発音するというような、当時スティックとも思えた、発音の「基礎の基礎」部分が、その後のリスニング・スピーキングなどの成長幅を決めかねない、大きな要因になっていたと実感しています。

毎回のよう口の開き方、舌の使い方、発音記号のイロハを教えてください。

今まで何気なく聞いていた英語が、口の形や発音記号まで頭でイメージながら聞けるようになったことで、入ってくる情報量が増え、学びの質が一段と向上したような気がします。

=====

Qトレーナーはどんな存在でしょうか？

まさに“伴走者”ですね。

英語学習をするにあたり、決して道を間違わずに、かつ最短の道のりを、節々で「マイルストーン」として、導いてくれる存在だと感じています。

私にとって“伴走者”とは、このトレーナーと歩んでいけば「間違いない」「最上の学習方法を教えてくれる」という存在だと感謝しています。

私どものような職業会計人にとっては、会計士・税理士は経営者にとって“経営上の伴走者”という存在です。日々の業務を通じて、仕事のにも“伴走者”という存在を意識していますが単に自身の知識を教えるだけの“ティーチャーではなく、ランナーにいつまでも自分で走り抜く力と知恵を授けてくれる“伴走者”という言葉がぴったりだと感じています。

=====

Qこれから英語を通じて達成したい目標はございますか。

外国人クライアントや、在外邦人クライアントに、自身の英語力をベースに、しっかりとビジネスの課題、ひいては日本の置かれている状況等まで含めて、お伝えすることを通じて、グローバルな社会貢献ができる職業会計人でありたいと思っています。

加えて、RIZAP ENGLISHで学んでいる私の背中を見て、世界を見据えたグローバル思考の社員が増えてくれたら、嬉しいかぎりです。

複雑な思いながら・・・「英語がビジネスになるのは日本だけ！？」といわれることもあります。加えて、300年後にはナント、日本語は消失してしまっているという著書も脚光を浴びている時代です。

それゆえ一日でも早く、日本人として英語でのコミュニケーションに対するハードルを低くしていくこ

とが、日本語のコミュニケーション・ツールとしての互換可能性を高め、
日本・日本人のレーゾンデートルを高めていくことにも繋がると思っています。

その意味でも、RIZAP ENGLISHは、将来の日本・日本人にとっても、なくてはならない
貴重な存在だと確信しています！